# 福岡イチゴ白書

福岡県を代表するイチゴのブランド品種「あまおう」が今年、販売開始から10周年を迎えた。県内のイチゴ生産者らが当時作っていた品種「とよのか」から一斉に切り替えたのが約10年前。以降、県を含む関係者は一丸となって生産技術の向上や販売拡大に取り組んだ。今や「あまおう」は全国でも屈指の知名度を誇り、そのまま食べるだけでなく菓子などへの利用も広がった。県は現在、イチゴの作付面積、生産者数、販売数量いずれも全国三位以内に入る。

2013年２月下旬から３月末にかけて、販売開始10周年を記念した「あまおう祭り」が開かれた。ＪＲ博多駅前の広場などを会場とするイベントに始まり、福岡空港ほかで新作の加工品が販売された。イベントは県産農林水産物全体のＰＲが本来の目的で、それらを使った特別料理の提供も行われた。そこで知名度が抜群の「あまおう」が看板としてＰＲに一役買った格好だ。

「あまおう」を使ったワインはさわやかな風味

県が一丸となってブランド化をすすめる「あまおう」

## 「あまおう」の「あ」は？

### 品種切り替え

「あまおう」が生産を広げ始めたのは02年。県内のイチゴ生産者は一斉に栽培品種の切り替えをスタート。当時、県内で生産されるイチゴ品種のほぼ１００％は「とよのか」だった。

切り替えの背景には二つのことがあった。一つ目は「とよのか」が県で栽培されて20年近くが経過しているため新しい品種を求める声が市場にあったこと。二つ目は当時、「とちおとめ」や「さがほのか」などライバル品種が登場したことで新品種を導入しようという機運が高まったことだ。

また「とよのか」は食味や香りが良いという強みを持つ一方で1、2月の厳冬期には果実の着色が比較的劣ることや栽培に時間がかかるという点があったことも切り替えを後押しした。新品種として福岡県農業総合試験場（福岡県筑紫野市）で育成が始まったのが販売開始に先立つ96年。まず糖度、酸度とも高く食味に優れる品種と果実が大きく着色が良い品種を交配した。交配には全国から優良品種を集め、１００以上の組み合わせを実施した。その苗から優れたものを選抜して「あまおう」は生まれた。形は整った短円すい形、色は光沢のある濃い赤、味は甘さと酸味のバランスがとれた甘酸っぱさが特徴だ。名称は02年の公募によるもの。あかい、まるい、大きい、うまいの頭文字から名付けられた。

### ブランド戦略

「とよのか」からの切り替えを「あまおう」に一本化して一気に進めたのは、県で統一することでブランドイメージを明確にし、関連する取り組みの焦点を絞ることができるからだ。また栽培地域を広げることで知名度を高めるという方法もあるが「あまおう」は福岡県内に限って栽培というブランド戦略をとった。

全国農業協同組合連合会福岡県本部（ＪＡ全農ふくれん、福岡市中央区）によると04年には福岡県内で栽培されるイチゴで「あまおう」の割合が90％を超え、05年にはほぼ１００％に達している。

「数年で全く切り替わるのは奇跡的」（ＪＡ全農ふくれん園芸部）という。その理由は品種の切り替えは単に苗を換えればできるものではないからだ。

イチゴは品種が異なれば肥料や肥料の与え方、ハウス内の温度管理、給水などのノウハウは異なる。また病気への対策や実が収穫適時になる期間や間隔も違った。その転換を約２０００戸の農家が一斉に取り組んだのだ。

具体的にはＪＡ全農ふくれんの指導や各地域の生産者グループの勉強会などでノウハウを伝えていった。また生産に関する好事例があれば紹介して広めた。県は栽培マニュアルや地域別栽培カレンダーの作成に対して支援した。

### 材料にも採用

ＪＡ全農ふくれんがかかわる11年度「あまおう」の実績は、作付面積３４８㌶（前年度比３％減）、生産者数１６８７戸（同４％減）、販売数量１万２１５２㌧（同８％減）だった。販売額は１４５億９４５７万円（同１％減）で１㌔㌘当たりの単価は１２０１円（同７％増）となる。

前年度を下回る実績が多いのは農業全体に共通する後継者不足が主因。その中でも作付面積や生産者数の減少が５％以内にとどまっているのは比較的高水準で推移していると言える。

ブランドが浸透してくると菓子などの材料として採用されるケースが増えてきた。イチゴショートケーキなどで知られるケーキだけではない。千鳥饅頭総本舗（福岡市博多区）はクリームに使った「あまおうチロリアン」を商品化した。

立花ワイン（福岡県八女市）はワインを開発した。色合いとさわやかな風味、甘い口当たりが特徴で女性に人気という。

またコンビニのロールケーキのほか大手メーカーのチョコレート菓子やポテトチップスにも使われており、「あまおう」の名が前面に打ち出されている。品質と人気の両方で認められた結果と言えよう。そのほかリキュール、ビール、ジャム、豆乳、乳飲料、乳製品、清涼飲料、アイスクリームなど合計60品目以上が製品化されている。

さらに食品にとどまらない。福岡市農業協同組合（福岡市中央区、ＪＡ福岡市）は化粧品のＯＥＭ（相手先ブランド）メーカーのホウリン（福岡県筑前町）と化粧品シリーズ「ア・ラグジュアリー」を共同開発した。商品化したのは洗顔剤、乳液、リップクリームなど。いずれも果汁エキスが使われている。近年は国内だけでなく海外でも知られる。現在の輸出量は年間10㌧。香港や台湾で高級果実として売られている。06年までに香港、韓国、中国で商標登録を行い、10年には中国での品種登録を行った。品種登録は無断栽培の抑止などが目的で日本で育成されたイチゴとしては中国初の登録となった。

### 出荷体制強化

今後の課題の一つは需要の変化に応じて出荷できる体制の強化と生産性の向上だ。イチゴはクリスマスシーズンなどに需要期を迎えるが、それ以外にも需要の波が来る。そこで「需要があるにもかかわらず出荷できないチャンスロス（機会損失）が発生する場合がある」（ＪＡ全農ふくれん園芸部）という。対応としては一つの株から複数回収穫できるが、その間隔を狭めることが求められている。

生産性に関して12年度は栽培面積が前年度に比べて10㌶減少にもかかわらず数量は５４８㌧増やす計画だ。

またブランド知名度の向上にもまだ余地がある。名前と共に由来も知られてきているが「あ」の意味を「甘い」と間違えるケースが多いという。生産、販売の両面で関係者に求められる取り組みも甘くないようだ。

箱入りはギフトにも最適

## 就農相談会 各地で開催

福岡県によると11年に自営農業を始めた人は124人。また80人が雇用で就農している。124人のうちイチゴを含む施設野菜分野が51人だ。イチゴは「あまおう」のブランド力があることなどから比較的収入が安定しており、就農でも人気の品種だ。

就農を考えているならまずは福岡県内各地で開かれている就農相談会に参加することを勧める。県内農業の概要や就農支援制度など大まかな情報が得られる。各地Ｕターンへの支援に力を入れており、相談会は１月と８月の帰省シーズンに開かれることが多い。就農地域や栽培品種などが絞られてきたら、その場所の近くにある県の農林事務所やＪＡが相談に乗ってくれる。

また近年は農林関連部署を窓口に、住居や子供の就学を含めてワンストップで対応してくれる自治体が増えている。

5社限定 ※先着順 提案付き 見積無料
インターネットで自社をアピールしたい
他社と差別化したい
自社のホームページでお問い合わせを増やしたい
自社商品の売上を伸ばしたい
ネットショッピングを始めたい
有限会社ドットイメージ Tel.092.262.2920

細かいモノが「見えづらい…」と感じたら　3R

● 辞書や時刻表が最近見えにくくなった
● 数字の「3」と「8」を識別しにくくなった
● 洋服のタグやレシートが見えにくい

このようなお声から生まれた新しい発想の拡大鏡

スタンドをつければスタンド式ルーペとして最近流行のプラモデルや電子工作などにも使えます。

LED付拡大鏡スモリア 3R-SMOLIA-5　2,980円（税別）

スモリア専用スタンド 3R-SMOLIA-ST　2,680円（税別）
スモリアスタンドセット 3R-SMOLIA-SET　5,660円（税別）

拡大率200倍／最大500万画素
手のひらサイズの携帯式デジタル顕微鏡

携帯式デジタル顕微鏡
（紫外線タイプ）3R-VIEWTER-500UV
（赤外線タイプ）3R-VIEWTER-500IR　32,800円（税別）

スリー・アールシステム株式会社
本社　〒812-0893 福岡市博多区那珂5丁目8番11号 TEL：092-441-4056／FAX：092-441-4077
東京支店　〒111-0056 東京都台東区小島1-8-1 岡崎ビル2F TEL：03-5809-3213／FAX：03-5809-3214
スモリアで検索　検索